
和歌山県が導入した遠隔医療（Telehealth¹）

システムの実現で

“毎月顔を合わせる”ことが可能に！

～100km 以上の県内を瞬時につなぐ、感染症の地域連携～

日本赤十字社和歌山医療センター 感染症内科部・救急科部
副部長 久保健児



県内多地点を結んでの遠隔テレビ会議（日本赤十字社和歌山医療センター側から見た雰囲気）。
医師・看護師・検査技師・薬剤師らが参加し双方向のやりとり中。

県内のネットワークはできたが、メンバーが集まるには遠すぎる！

和歌山県は山間部が多く、西北端の和歌山市から東南端まで直線でも100kmあり、関西でいち早くドクターヘリの運航が導入された地域です²⁾。県下9つの保健所圏域の病院のうち、感染症内科を開設している医療機関は、和歌山市保健所圏域の日本赤十字社和歌山医療センターのみでした。

このような背景の中、潜在的ニーズに答えるべく、県内に散らばる中・大規模病院約25施設や県庁・保健所の感染担当者が加入する形でWaICCSネットワークは立ち上がりました。しかし、忙しい現場を跡にして遠隔地からはるばる一同に集まるとなると、物理的な距離の問題が大きな課題となりました。

これはいいかも！働き方改革や、情報セキュリティの点でも

一方で、和歌山県は、県下の主要な病院等 18 か所と遠隔地の診療所 9 か所（2019 年 7 月時点、2016 初年度：5 箇所、2017 年度：4 箇所）に遠隔テレビ会議システムを配備し、情報セキュリティが保たれた閉鎖環境での遠隔カンファレンスや遠隔外来ができる仕組みづくりを推進してきました³⁾。院内に設置されているため、業務時間内でも遠隔地とのカンファレンスが可能となり、従前の時間外に移動して集まるスタイルでなくても専門家どうしが意見交換を行う環境が実現しました。

和歌山感染症地域連携遠隔カンファ

(Wakayama Infectious Diseases Collaboration Teleconference; **WICT**)

そこで、当センターでは 2018 年度から、遠隔医療推進協議会の事務局である和歌山県福祉保健部健康局医務課との相談のもとに、本システムを利用した多職種の情報共有カンファレンスを行うことになりました。ここで、感染症診療・感染管理における相談の場を提供するとともに、ご紹介いただいた方の経過報告などを行い、県内医療機関の皆様方とともに双方向の情報共有を実現しています。

これまでのところ、1(～2)か月に 1 回の定期開催とし、毎回 5 病院以上 5 職種以上 30 人前後が参加しています。トピックスによって、和歌山県庁や保健所長らにも参加していただいています。

取り上げられた内容としては、和歌山県の南部（紀南）で発生の多いマダニ関連感染症、抗菌薬の適正使用、抗菌薬の供給制限、新薬の扱いに関する意見交換、県内からの世界初のサルコシスチス感染症（🏠紀南病院 中野好夫先生の解説を参照）に関する報告など多岐にわたります。

1) 遠隔医療 (telehealth) とは、米国保健福祉省 (HHS) の保健資源局 (HRSA) の定義では、遠距離の診療、患者・医療者の教育、公衆衛生・保健管理を支援・促進するために IT 情報・遠隔通信技術を利用することと定義される。

<https://www.healthit.gov/topic/health-it-initiatives/telemedicine-and-telehealth> (2019/7/25 アクセス)

2) ドクターヘリコプター. 和歌山県立医科大学救急集中治療医学講座ホームページ.(2019/7/25 アクセス)
<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/eccm/doctorheli.php>

3) 野尻孝子. 和歌山県の遠隔医療推進の取り組み. 日本遠隔医療学会雑誌. 2018;13 巻補刊号 p.12.